

令和元年度
会津若松市男女平等に関する作文コンクール

入選作品集



会津若松市

目次

令和元年度「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 鈴木 秀子

●小学生低学年の部

最優秀賞 ほけん室の先生になりたい

優秀賞 男の人も、女の人も

優秀賞 男女平どうについて

●小学生高学年の部

最優秀賞 男女平等は難しい

優秀賞 おうちの仕事

優秀賞 協力すること

●中学生の部

最優秀賞 男女平等

優秀賞 「女性の社会進出」について

優秀賞 私から始められること

城南小学校	三年	上野	悠真	さん	1
小金井小学校	三年	弓田	心菜	さん	3
門田小学校	三年	吉田	修斗	さん	5
東山小学校	六年	渡部	優妃乃	さん	7
謹教小学校	四年	佐藤	悠生	さん	9
小金井小学校	五年	富樫	巨來	さん	11
第二中学校	二年	高倉	早紀	さん	13
一箕中学校	一年	永井	優衣	さん	15
会津学鳳中学校	二年	芳賀	あかり	さん	17

※ 同賞については氏名50音順です。
 ※ 公表の承諾を得た作品を掲載しています。
 ※ 各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和元年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 鈴木 秀子

会津若松市が平成12年に県内初の男女共同参画都市を宣言してから今年で20年を迎えました。この間、「会津若松市男女共同参画推進条例」に基づき、すべての人々が性別にかかわらず、個性や能力を十分に発揮することができる社会、多様な生き方を互いに認め合い、生きがいを持って自分らしく、安心して暮らせる社会の実現を目指して、さまざまな取り組みを行ってきました。「男女平等に関する作文コンクール」もその取り組みの一つです。

今年の作文コンクールには352作品の応募があり、特に中学生の部は318作品とこれまでになく多くの応募がありました。厳正な審査の結果、最優秀賞3作品（小学生低学年1、小学生高学年1、中学生1）、優秀賞6作品（小学生低学年2、小学生高学年2、中学生2）が選ばれました。

小学生低学年の部では、家族が協力して生活している中で感じたお互いを思いやる気持ちや性別にとられず能力を発揮できる社会への期待、高学年の部では、家庭や学校生活で感じた性別固定的イメージや役割を考察して、性別を超えた人としての平等の大切さや人として成長したいという願望、中学生の部では、世界や日本の社会通念や男女共同参画の現状に視野を広げて分析し、お互いを尊重することの大切さ、多様な生き方が尊重されなければならないこと、男女共同参画の実現のために自分から発信できることを考え前に進むようとしている思いがまとめられてありました。

子どもたちの作品に頼もしさを感じると同時に、どの作品にも身近な家族や先生など大人からのメッセージが考えるきっかけとなって登場しています。大人の重責を痛感します。

この作文コンクールをきっかけに、より多くの子どもたちが男女平等や男女共同参画について関心を持ち、性別による固定的なイメージや役割分担にとられず、自分らしさとは何か、男女平等とはどういうことか、男女平等のために自分ができることは何かを考え、行動して欲しいと思います。令和の新時代が男女平等と多様性を尊重した社会となるよう、私たち大人が行動で示していかなければならない思いを新たにしています。

優賞
最秀

ほけん室の先生になりたい

城南小学校 三年 上野 悠眞

ある日の小学生新聞で「男せいのほけん室の先生」の記事がのっていた。

「うちの学校では、女の先生だけれど男の先生もいるんだ。」

と、かん心しながら読んでいた。すると、お母さんが、

「男の先生は、あまりいないね。ほけん室の先生は、『女の人』っていう考えが、むかしから強くあるからね。」

と言った。ぼくの友だちの小学校のほけんの先生も、みんな女の人だった。女の人だけの仕事なんて、ちよつとへんだなって思った。

ぼくが、友だちの前で、

「しように来、ほけんの先生になる。」

と言ったら、まわりの友だちはどういふ顔をするだろうか。またわられるのかな。

一年生の時、クラスでしように来のゆめを話したことがあった。その時のぼくのゆめは、「かんごし」になることだった。クラスの友だちや先生からは、

「すごいね。がんばってね。」

とはげましてもらった。けれど、

「男なのに、かんごしなの？女みたいだな。」

と言ってきた男の子もいた。ぼくは、心の中で、

「なんでだめなのかな。」

と思った。だって、ぼくが入いんした時に、男のかんごしさんもいて、ぼくにやさしく声をかけてくれたり、すきなキャラクターの話をしてくれたりして、うれしかったからだ。だから、かんごしになりたいと思ったのに。それから、人前でしように来のゆめを話す時には、「かんごし」と言うのをやめた。そしていつからか、ちがうしように来のゆめを持つようになった。

今回の新聞を読んで「男の人の仕事だから、女の人の仕事だから。」という話は、やめてほしいと思った。男の人がかんどしやほけん室の先生になってもいいし、女の人が大工さんやトラックの運てん手さんになってもいいと思っている。やりたいことをやれる社会になってほしい。

ぼくがもし、ほけん室の先生になったら、女のほけん室の先生といっしょにはたらきたい。男の子の話や体のことは、ぼくがするところで、女の子の話はぼくには、わからないところがあるから、女の先生がするところ、というふうにできたら、子どもたちには、とてもいいだろう。

今度しよう来のゆめを話すことがあったらつきり「ほけん室の先生」とみんなにつたえよう。男の先生にしかできないこともあるよ、と教えてあげたい。

これで、男だから、女だから、という考えが少しでもなくなっしてほしいと、ぼくはねがっている。

講評

看護師になりたいといった時の男友だちの反応がきつかけとなり性別による違いや仕事についていろいろと考えて学びとったところがすばらしいです。

また、男女がお互いを尊重し、協力するという思いがもつともつと広がっていくといいですね。

優秀賞

男の人も、女の人も

小金井小学校 三年 弓田 心菜

私は今、バドミントンと水泳を習っています。いつも男の子も女の子もいっしょに練習しています。教えてくれるコーチもお父さんやお母さんなど男の人と女の人がいっしょに教えてくれます。私にとっては当たり前前の練習風けいでした。

でも、ちよつとちがうスポーツもあります。私のお兄ちゃんは高校で野球をしています。小学校中学校では女の人もいっしょに野球をしていたのに、高校になったら女の人はマネージャーという役になっていました。マネージャーとは、せんしゆをサポートする人です。どうしていっしょにプレーできないのでしょうか。私はお兄ちゃんに聞いてみました。お兄ちゃんも、いっしょにプレーできない事をふしぎに思っていたようです。あぶないから、とか力のさがあるからと言われているようですが、やりたい

のにいっしょにプレーできないのはかわいそうだなと思いました。

夏休み中に、野球はこうしえんをテレビでほうそうしています。こうしえんでプレーできるのも男の人だけのようです。これだけでもさべつではないでしょうか。男の人の方が力はあるし背も高いかもしれません。それは女の人にとって少しのハンデにしかすぎません。男の人と同じようにチャレンジする事によって自分の力をじゅうぶんはつきできてなつとくする結果につながるんだと思います。

私は中学生になっても高校生になっても大人になつてもバドミントンを続けていきたいし、お友達にも好きなスポーツをずっと続けてもらいたい。その時に、男とか女とかの理由であきらめなくてはならなくなってしまうたらしくやしいと思います。くやしーい思いをしないように、今から男女のさをなくしてもらいたいです。

私のりよう親ははたらいています。男の人も女の

人も同じくはたらいっているのに、どうしていつしよにできない事もあるのでしょうか。私にはまだよくりかいてできない事が多いです。女だからダメとかいう理由をなくしてもらって、何でも同とうにできるようにになったらいいなと思います。

講評

全てが同等と思う事は本当に大切だと思います。しかし、男性女性の生理的の違いを理解し、おたがいの無い所をカバーし、協力し合うことも考えて行行って欲しいと思います。どんな競技も男女は分かれています。男女混合もあります。又、仕事の面でもこれからもっともっと男女の差が少なくなっていくって欲しいと思います。

優秀賞

男女平どうについて

門田小学校 三年 吉田 修斗

ぼくの家は、お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも仕事をしています。でも、今年の四月からおじいちゃんは仕事をやめて家にいます。おじいちゃんは毎日、テレビを見たり、本を読んだり、庭の木の手入れをしたりしています。

おばあちゃんは、畑で野さいを作ったり家で仕事をしています。ごはんを作るのと、せんたくをするのは、おばあちゃんとお母さんです。おじいちゃんとお父さんは食べるだけです。

お母さんも仕事をしているけど、ぼくたちの朝ごはんとお昼ごはんも作ってくれます。

ぼくはお母さんに、「たいへんだから、お昼ごはんは作って行かなくていいよ。」

と言うと、

「ありがとう。たすかる。じゃあ、おばあちゃんにおねがいするね。」

と言います。やつぱり作るのはおばあちゃんです。お母さんが作ったりよう理を食べて、

「おいしい。もつと食べたい。」

と言うと、お母さんはえ顔でよろこびます。

ぼくがせんたく物をたたむの手つだった時も、

「ありがとう。たすかる。」

と言ってくれます。なので、五年生くらいになったら、りよう理も作ってみたいです。

おじいちゃんもお父さんも、お手つだいすれば、少しはおばあちゃんとお母さんが楽になると思います。

女の人だからしないといけないというのはちがうし、みんなできよう力すれば、もつとみんながえ顔になると思います。

ぼくが大人になって、もしけっこんしたら、

りよう理もするしせんたくもそうじも、できるだけやろうと思います。

講評

家庭内の様子がとても素直に書かれていて、ほっこりします。お母さん、おばあちゃんに対する感謝の気持ちがあふれています。おとうさん、おじいちゃんに対するきびしいまなざしが感じられます。やさしい気持ちが出ています。

優賞
最秀

男女平等は難しい

東山小学校 六年 渡部 優妃乃

私は、女で産まれてきた。十一年しか生きていないが、「男に生まれてきたかった。」と何度も思った事がある。

ある日、運動着をぬいだまま放置してしまい、母に

「女の子なんだからちゃんとかたしなさい。」

と、おこられてしまった。家に早く帰りたくて、えんぴつを筆箱に入れず直接ランドセルに入れて帰った事もあった。読んだ本を元に戻さず、ベッドに置きっぱなしにした事もあった。母は、その度に「女の子なんだからちゃんとしなさい。」

とおこる。私は思った。「男だったらゆるされるのか？」言葉づかいも、身だしなみもしぐさも、「女の子らしく」しなければならぬ。ちっとも男女平

等じゃないじゃないか。そもそも「男女平等とは何か」をインターネットで調べてみた。ウィキペディアでは、「男女同権と言い、男女の両性の権利が同等であること、および、そのような理念」を言う。男女が同じ権利を持つという事だ。でも日本ではえらい人はだいたい男だ。医者も政治家も男が多い。なんでなんだろうと思ひ考えてみた。女は子供を産んで育てないといけないから？女は家事をしなければいけないから？不思議に思った。子供は女の人しか産めないけど、子供の面どうを見たり、家事をしたりする事は男の人でも、できるのではないか？昔から日本は、女の人がする役割と男の人の役割をこういうもんだという考え方で暮らしてきたせいではないか？じゃあ女の人ががんがんに働く世の中になったらみんな幸せになれるのか。きつと働く、働かないとかは、関係なく、自分達が希望する中に男も女も関係なく評価されるべき事なんだと思った。消防や警察官、自衛隊や大工さんなど、危険だったり体力

が必要な仕事もたくさんある中で男女平等なんて難しいと思うし、男がやる仕事、女の方がいい仕事もたくさんあると思う。

ただ、危ない仕事でも女の方がしたいと思うならそれは自由だし、男の人がしたいと思うのも自由であって、女だから、男だからという目で見てはいけないんだと思う。

じゃあ男の人がスカートをはきたいのであればはいても変な目で見てはいけないし、女の人が上半身はだかでもいいのだろうか？母に聞いてみると、「男だから、女だからではなく、人としてどう思われるのかだね。」

と返事が返ってきた。なるほどと思った。男、女の前に人なんだなと思った。私は母に言った。

「これからは女の子なんだからって言わないでね。」母は笑っていた。男女平等という名前が難しく考えさせられるので、私は人はみな平等という考えかたの方がいいなと思った。そして母は言った。

「六年生なんだからきちんとかたづけなさい。」と。男、女関係なく人として成長していけるようがんばります。

講評

普段の生活から男女平等について疑問に思い調べることにより、いかに困難であるかを知った上で自分の考えを述べ、結論として男女関係なく「人として」との考えはとても素晴らしいです。

優秀賞

おうちの仕事

謹教小学校 四年 佐藤 悠生

ぼくは、男女平等の意味がわかりませんでした。平等を国語辞典で調べると、「差別なくみんなが等しいこと」と書いてありました。男と女が差別なく等しいことってどういう事か、なおさらわからなくなりました。

「お母さん、男女平等ってどういう事。」

とお母さんに相談しました。お母さんは、一まいの紙を出して、お家の仕事でお父さんのする仕事、お母さんのする仕事を書いてみなさいと言いました。お母さんの仕事は、ごはんを作ったり、洗たくをしたり、ゴミをすてたり、部屋のそうじに、ぼくたちの習い事のそうげいや学校の勉強もみてくれるなど沢山書けたけどお父さんの仕事が全く書けませんでした。お母さんだって毎日仕事に行きます。ぼくは、お母さんが仕事を沢山がんばっていたことにはじめ

て気づきました。これが平等でないって事かと思いました。

この前、お母さんは仕事から帰ると頭がいたくてベッドに横になりました。薬を飲んでも治らなくて、ぼくたちは静かにしていました。お父さんが仕事から帰ってきて、ぼくとお父さんはごはんのおかずを買いに行きました。買ってきたごはんをお父さんと兄と弟とぼくで食べました。ぼくは、皿をならべたりはしを配ったり、麦茶をコップに分けました。食事の後、お父さんは、みんなの使った皿やコップを洗いました。お母さんみたいに速くはできなかつたけど、お父さんの洗った皿はピカピカでした。

家の仕事をお母さんだけがすると、お母さんばかりつかれてしまいます。お父さんに手伝ってほしいと思っただけで、ぼくやお兄ちゃんや弟にもできる事があります。お母さんが病気になった時に手伝おうとしても、急にできないので、ぼくにできる事はどんどんやってみようと思いました。

優秀賞

協力すること

小金井小学校 五年 富樫 巨來

ぼくは、今まで「男だから、女だから」とあまり気にしたり考えたりすることはありませんでした。でも、この夏休みに、ぼくのお母さんが一週間入院することになりました。そこで、少し思ったことがあり、この作文を書ききっかけとなりました。

お母さんのことは心配だったけど、それ以上にぼくには心配なことがありました。お母さんが入院している間のご飯の準備やかたづけ、せんとくやそうじなどの家のことはどうなってしまうんだろうと思いました。家のことは、お父さんも手伝うけれど、ほとんどお母さんがやっています。だから、

「お父さん一人で大じょうぶかな？大変だなあ。」と心配でした。

入院する前、お母さんは家中のそうじをし、せんとくの仕事、調味料などが入っている場所をお父さ

んに教えていました。また、お父さんもご飯は何を作ろうかとお母さんに相談したり、たんだせんたく物をどこにしまうかを確にんしていました。入院中お父さんは、病院へ行ったり、買い物をしてご飯を作ったり慣れないことも一生けん命やってくれました。退院してきてもすぐにいつものように動けないお母さんの代わりに、家のことをお父さんがしてくれました。それを見てぼくも、自分でできることはなるべく自分でやるようにしていました。

ぼくは、お父さんとお母さんの様子を見ていて、「男だから、女だから」ではなく、協力し合うことが大切なんだと思いました。ぼくも男だからとか、小学生だからできないときめつけないで、ぼくにもできることを見つけてこれからも協力していきたいと思いました。みんなが、協力する気持ちや助け合いの気持ちを持ってくれるといいなあとお母さんの入院をきっかけに感じました。

このことは、家の中だけじゃないと思います。

学校でも、協力することはとても大切です。協力すると考えるとむずかしく感じてしまいますが、おたがいにやさしい気持ちをもつことだと思います。やさしい気持ちがどんどん広がって、「男だから、女だから」ではなく、みんな同じなんだという考えになればいいなと思います。

講評

お母さんの入院がきっかけで、家の中の仕事を分担しようという気持ちになったことや、両親の様子を見て「男だから、女だから」ではなく、互いに協力し、助け合うことが大切だと考えられようになったことはすばらしいと思いました。

優賞
最秀

男女平等

第二中学校 二年 高倉 早紀

日本という国は、歴史的に男尊女卑という社会通念が占めてきた。社会で学ぶ歴史上の偉人はほとんどが男性だった。

しかし、令和の時代に入ろうとしている今、昔と比べて日本は変わった。女性が働けるようになった。国内や世界的にも女性が活躍するようになった。女性だからこそできる、女性でもできる、性別なんて関係ないという考えはすばらしいと思う。

でも、男女の差はゼロにはできない。どうしても男性と女性は違う。スポーツでも男子と女子を分けるように、どんなにがんばっても違う。平等だが、平等ではない。夫婦でもそうだと思う。私の両親は共働きで、毎日仕事をしている。しかし、家事はほとんど母がしている。こんな家庭は多いのではないだろうか。

学校でもそうだ。当たり前のことなのだが、女子と男子は区別される。男子に乙女心が分からないみたいに、やっぱり女子と男子は違う。国語の時間、恋の短歌を鑑賞したとき、男子は作者の女心が理解できないようだった。しかし逆に女子も男子を理解できない。なぜ男子があんな行動をするのか分からないと相談を受けることもある。

このように全く違う性差を一緒にするのは難しいし、男女平等と言われると女性を意識しがちだ。けれども、男性が世界の人口の約半分を占めているのだから、ないがしろにしてはいけなない。男尊女卑が女尊男卑に変わっても意味がないからだ。

このように、男女の違いはあるというのが私の結論だ。でも男と女が分かり合えないというのは違う。ある、仲睦まじい夫婦が、夫婦円満の秘訣は何ですかと聞かれてこう答えていた。

「お互いに尊敬していることです。」

すごいなあと思った。この作文を書いていたら、頭の中にぱっと浮かんできた。

思うに、違うことを何でも同じくする、ということが平等ではないのではないか。それぞれの違いを否定したり正したりするのみならず、受け入れて尊重し、互いの良さを「認め合う」ことこそが本当の「平等」なのではないだろうか。

世界中の人々は男と女に分けることができる。男女平等は全ての人が平等ということだ。男と女に差はある。でも、気持ちが平等だったら平和だと思う。その平等な気持ちの一部が尊敬するということだと思う。

男女平等の社会を作りつつある日本。きつとみんな、同じことを考えていると思う。男女平等はいいことである、ということだ。

講評

この作品は、男女の違いを認め、その違いを分かり尊重し、お互いの良さを認め合うことが本当の男女平等であると訴えている。私たち社会人が、今、必要であるものは何かを教えてくれているようである。

優秀賞

「女性の社会進出」について

一箕中学校 一年 永井 優衣

現在、日本の男女平等のランキングは世界百四十四ヶ国の中で第百十一位とネットに記載されていた。私はその順位に驚きました。今まで、私は男女平等について意識していませんでした。

そこで、私は男女平等について調べることになりました。まず、身近な家族の意見を聞くことにしました。それは、人生を私よりも長く経験している父と母に地域社会や会社などでの男女平等について知りたかったからです。

父と母も男女平等についての日本の順位には私と同じく驚いていました。そのあと母は、

「地域社会で女性の活動する場が昔と違って増えてきているよ。」

と話してくれました。私が住んでいる町内会でも

婦人会の組織があり、地域貢献しているそうです。

父からは会社での男女平等について聞きました。父は、「会社でも地域社会と同様に女性が活躍できるようになってきたいて、女性における職制の数が年々増えてきているよ。女性の比率も上がってきているんだよ。」とのことでした。

男女平等で世界で遅れていた日本でも少しずつ良くなってきたかと思いましたが。しかし、私の中で少し気になっていたことがあります。先日、会津若松市で市長と市議会の選挙がありました。立候補した方のほとんどは男性の方でした。政治家になる人の数からもわかるように、やはり男女平等について日本は遅れているのかもしれないですね。

日本は、まだまだ男女平等の社会にはなっていないと思います。日本が今まで以上に男女平等の社会にするには、上に立つ人の意識を変えなければならぬと思います。そのためには社会進出できる環境づくりを、政治家

や会社の経営者の方などがもつとスピードを持って取り組むことが必要だと感じました。その取り組みにより、日本の男女平等が世界から認められると確信しています。

私も将来社会人になった時に女性の社会進出に貢献できるように、頑張っていきたいです。

講評

男女格差を少なくしていくにはどう改善すれば良いかを考え、努力していく意思がうかがえる良い作文です。先般の発表では、世界百五十三カ国の中で第二百二十一位と、さらに下がりました。若い皆さんの活躍を期待しています。

優秀賞

私から始められること

会津学鳳中学校 二年 芳賀 あかり

その特集は、私の心と目を引きつけて離さなかった。ある日の夕方、親と一緒にニュース番組を見ていた。夏休みだからか海関連の特集が多く、「だんだん海にも遊びに行きたいな。」とボーツとテレビ画面を見つめながら思っていた。すると、「海の安全を守る海上保安官」というテロップと一緒に船に乗るたくさんの方の海上保安官が映し出され、次の瞬間に、たった一人の女性海上保安官が画面いっぱい大きく映し出された。私はびっくりにした。男性の海上保安官と一緒にトレーニングをしたり、訓練を受けたりするのには辛そうなのに、凛としていて、その姿に強い意志が見えたからだ。でもそれより、「女性なのに」このような職業をしていることにもびっくりしてしまった。

でも後からこのニュースについて改めて考えてみる

と、男女差別というものは私たちの考えから生まれることがよく分かった。思い出してみると私も、「女性なのに」と考えていた。でも誰が「海上保安官は男性の職業」「女性が海上保安官やるのはいけない」と決めたのだろうか。いや、誰もそんなこと決めていない。こういうことなのだ。「私たちの考えから」というのはこういうことなのだ。だから男女差別はなくなるのだ。

私が生まれるもつと前、女性は家事を、男性は仕事に出てお金をかせぐ事をするのがあたり前だったそうだが昔はそれで成り立っていたが、今には今に合った考え方があっていいと思う。今は昔に比べて女性が働く事がとても多くなっただろうし、男性が子育てをしたり、家事をする事も増えただろう。時代が変わるにつれて性の壁がだんだんなくなっていくのなら、それに伴って人々の考えもだんだんと変えていった方が良くはないだろうか？

でも世界には数え切れないくらいの方がいて、その

一人一人に私の考えを伝えるのには無理がある。だから私は、私自身の考えを変える事から始めようと思う。私が「女だから」「男だから」と考える事をやめて、職業でも、習い事でも、性格でも、得意な事でも、誰であろうと平等な考え方で物事を考えられたら、それが私の家族、親せき、その知り合い・・・へと、どんどん広めることができるかもしれない。

このように、「男女平等」という抽象的な問題の原因は、個々の性別についての考え方だ。一人一人が自分の考え方を見直して、女性も、もちろん男性も、職業はもちろん、自分のやりたい事が出来たり、能力や個性が充分に発揮できるような世の中になると良いな、と心から思う。

講評

実体験を絡めた良い作文だと思います。自分自身の狭い考え方を変えること。それによって社会も良い方向に変わって欲しいという願いは、我々皆の想いなのかもしれません。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、令和元年から令和5年を計画期間とする
「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、
「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりがその個性や能力を十分に発揮することができるまち」を目指して、市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。



市ユニバーサルデザイン
キャラクター
「ゆにぼくん」

発行 令和2年2月

会津若松市 企画政策部 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号

TEL. 0242-39-1405 FAX. 0242-39-1400

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

この作品集は市のホームページでも掲載しています

